

病理診断科

(2024年3月在職者名)

病理診断科部長 米田 玲子

病理診断科医師 松本 崇雅

▶ 活動内容

診療科から提出される組織・細胞検体からプレパラートを作製し、顕微鏡を用いて診断を行っている。診断の種類としては、細胞診断、生検組織診断、手術材料の組織診断、術中迅速診断および病理解剖がある。採取された組織が悪性なのか良性なのか、悪性であれば腫瘍の種類や腫瘍細胞の広がり、細胞の特性、ゲノム異常などを見極め、臨床での治療につながる最終診断を行っているのが病理診断科である。

病理診断の際には、画像情報を含めた多彩な臨床情報や肉眼所見なども重要な情報となる。臨床経過や画像情報を把握できるよう、電子カルテを用いて積極的な情報収集を行っている。また、臨床科との定期的なカンファレンスで、病理診断と臨床情報のすり合わせを行っている。

病理診断の補助となる手法として免疫組織化学染色がある。院内に多数の抗体を取り揃えることで、多種類の標本を迅速に作製し、正確な病理診断を行うことを可能としている。

病理診断科は、常勤病理医2名（病理専門医は1名）、臨床検査技師6名（うち5名が細胞検査士の資格保有者）で構成されている。九州大学の形態機能病理学教室から週2回の診断応援があり、病理専門医によるダブルチェックを行っている。病変の遺伝子異常の同定が必要な場合は、同教室に分子遺伝学的解析を依頼している。また、珍しい症例や難解な症例については、日本病理学会所属のエキスパートにコンサルトすることで、多彩な疾患の病理診断に対応し、診断精度の向上に努めている。

▶ 実績

	2019	2020	2021	2022	2023
組織診断件数（うち術中迅速）	6,989 (276)	6,538 (255)	6,733 (303)	6,824 (295)	7,233 (292)
細胞診件数（うち術中迅速）	7,051 (100)	5,921 (119)	6,249 (118)	6,146 (116)	6,294 (100)
剖 検	10	4	6	6	2

(病理診断科部長 米田 玲子)